

令和元年度第 3 回(通算第 9 回) 学校再編検討会議

資 料

【説明会のまとめ】

① 志染中学校区	令和元年 7 月 23 日	1
② 星陽中学校区		
口吉川地区	令和元年 7 月 29 日	3
細川地区	7 月 30 日	5
③ 吉川 4 小学校区		
上吉川小校区	令和元年 7 月 25 日	7
みなぎ台小校区	7 月 31 日	9
中吉川小校区	8 月 2 日	11
東吉川小校区	8 月 5 日	13
参考 「学校再編の実施方針に係る提言(案)」		15

三木市の学校再編についての説明会まとめ（志染地区）

開催日：令和元年7月23日

会場：志染町公民館

地域出席者 志染町の住民、保護者等 44人

市教委出席者 教育長、教育総務部長、教育振興部長、学校教育課長、
学校再編担当副課長、学校再編担当主査

1 説明内容

- (1) 学校再編検討会議からの提言（案）について
- (2) 統合準備について
- (3) 心のケアについて
- (4) 通学方法について

2 質疑応答（◎地域住民、保護者の発言 ・市教委の発言）

◎緑が丘中学校までの急で長い坂道ついてどのように考えているのか。

- ・上りは、自転車に乗ったまま坂を上るのは無理だと感じた。特に急なところは、押して歩かないといけないと考えている。
- ・下りは、安全に走行するよう、生徒に十分な指導が必要である。
- ・荷物については、家庭で使用しない教科書等については学校に置いておくような取組が始められている。

◎統合校を緑が丘中学校にする理由として、「地理的に東西に長い志染地区のほぼ中間点に位置するから」とあるが、それだけで決められたのか。「地域を割ってでも通学距離が近い学校に統合する」という意見は、議論の中でどの程度扱われたのか。

- ・保護者からは「もともと少ない数を割らないでほしい。」という意見が聞かれた。
- ・「地域のほぼ中間」、「生活圏は緑が丘、青山」というのは地域の方からの意見であり、根拠の一つになった。また、アンケートの中に「統合先は緑が丘中学校がいい。」という意見が散見された。

◎統合準備が10月からスタートするとあるが、具体的にどういうことをするのか。

- ・統合準備委員会を設置し、準備委員会の中を専門分野ごとに分類して進めていこうと考えている。

◎中学校に行ったときに、志染の子どもたちが大人数の中でもしっかりと学んで

いけるように、子どもたちの学力をしっかりと保障してほしい。また、子どもたちの心のケアのための先生について、緑が丘中学校でも、子どもをしっかりとフォローできるような人員の配置をお願いしたい。

- ・志染中学校からきた子どもたちの学習の様子や心の状況をしっかりと見守る教員の配置を考えている。

◎志染バイパスには街灯がない。また、草が多く、運転手から通学している子どもの姿が見えない状況がある。今回の再編に際して、県や市への働きかけをお願いしたい。

- ・今回、案として提示したルートについては、危険な箇所はないか、街灯等も含めて点検を行う必要があると考えている。必要な安全対策はしっかりと講じていかなければならない。

◎保護者に対する説明の場はこれからも設定してほしい。

- ・今後、様々なことを準備委員会の中で検討していくことになる。検討する際には、PTAの方にも準備委員会に入っていただく。決まったことはその都度、お知らせしていく。

◎青山の坂を上がっていくことに不安をもつ保護者が多い。緑が丘駅から青山5丁目に走っている路線バスのうちの何本かだけでも、志染中跡地か志染町公民館で回転できるようにしてもらえたら、休日や夏休み中にも使える。また、地域の人も使える。市と業者で協議してもらえたらと思う。地域の人も使えるようになり、とても有効だと思う。

- ・地域部会で協議をする中でもこの意見は出た。業者との交渉にもなり、なかなかすぐにはいかないが、検討していく。

◎統合まであと18か月しかないが、他地域の好事例を教えてもらえるのか。

- ・他地域の好事例については伝えていく。それを参考にしながら準備委員会で検討していきたい。

三木市の学校再編についての説明会まとめ（口吉川地区）

開催日：令和元年7月29日

会場：口吉川町公民館

地域出席者 口吉川町の住民、保護者等 48人
市教委出席者 教育長、教育総務部長、教育振興部長、学校教育課長、
学校再編担当副課長、学校再編担当主査

1 説明内容

- (1) 学校再編検討会議からの提言（案）について
- (2) 統合準備について
- (3) 心のケアについて
- (4) 通学方法について

2 質疑応答（◎地域住民、保護者の発言 ・市教委の発言）

◎中2、中3で統合になる子どもたちは、負担やデメリットが大きい。この2学年が「やめてほしい」と声を上げたら統合はやめてもらえるのか。統合する時期を変えるということはあるのか。

- ・どこかの学年が統合を迎えることになるので、時期をずらすということは難しい。
- ・事前事後において、心のケアに取り組み、マイナスとなる部分を減らしながら、できるだけ負担の少ない状況の中で統合を進めないといけない。

◎制服やかばん、通学バスの費用等は市で負担してくれるのか。

- ・統合に際して市が制服やかばんを購入するということはない。このたび運行するスクールバスの費用については、保護者の負担は考えていない。
- ・今後、統合準備委員会等で考えていく。その中で、2校の制服の併用、リサイクル制服の活用、統合前に2校で物品を共通にする等の工夫ができるかもしれない。

◎部活動も中1からだったらスムーズに入れるが、中2や中3から入るといふことにはメリットが全然無いと思う。そういう負担のことも考えて、話を聞いてほしい、話を聞いてもらえる機会をつくってもらえるのか。

- ・今後、話をお聴きする機会をつくりたい。

◎学校再編に関しては、7月の区長協議会では、全員一致で三木中学校との統合が望ましいという意見になった。口吉川でも生活圏は三木である。地域に根ざしていない学識者の意見で学校再編が進められるのはどうかと思う。地域の面積ではなく、地域住民やこれから就学する方のための学校再編にしてほしい。

・ご意見として伺う。

◎もともと中学校の統合であるはずなのに、なぜ星陽中学校を2つに割るのか。

・もともと星陽中学校を割る考えはなかった。子どもたちが通学する距離や時間を考えると、ある程度地域が隣接した学校が良いのではないかと考えている。

◎吉川中に行く場合の案は示されたが、三木中に行く場合はどうなのか。

・6kmを一つの基準にしているので、全員がバスで通学することになると考える。距離だけではなく、通学時間についても考えている。口吉川の一番遠いバス停から三木中までだと、40分以上かかると考える。

◎小中一貫校はいつ建てようとしているのか、どこに建つのか。口吉川に建つ可能性があるのか。

・小中一貫校を第一校区に建てるのは概ね10年未満を目標にしたい。
・どこに建てるか今のところは白紙の状態である。児童生徒数を考えると口吉川地区の中に建てるのは難しいと考えている。

◎吉川中を希望している意見もある。いろいろな意見を総合的に判断してほしい。

◎統合は、最終的には誰が責任を持って決めるのか。

・まず有識者会議から提言をいただく。それを踏まえて、総合教育会議で議論をする。その上で、最終的に決定するのは、三木市教育委員会である。

◎これだけ切実な意見が出ている。いろんな場合の情報を、できるだけ多く提供してほしい。保護者の意見は丁寧に吸い上げてほしい。

◎星陽中のまま卒業させることはできないのか。

・もともと小さい学校で、下級生が入ってこないとなると、教育の体制づくりが難しい。段階的に統合するのは困難が多い。
・中3になった時に中2も中1もない、つまり、先輩になる経験ができず、さらに少人数の中で教育が行われる。それが本当に子どもたちにとって良いとは考えにくい。

◎夏休みは、バスが出ないから自転車で通うことになるが、道路は整っていない。あと2年で道路が整うのか。

・危険な場所は点検する。必要な場所は対策を講じていく。道路の整備は県と協議しながら進めていく。
・統合の準備委員会等で通学路をどこにするか決めていくことになるが、安全な通学路を設定しないとイケない。

三木市の学校再編についての説明会まとめ（細川地区）

開催日：令和元年7月30日

会場：細川町公民館

地域出席者 細川町の住民、保護者等 42人
市教委出席者 教育長、教育総務部長、教育振興部長、学校教育課長、
学校再編担当副課長、学校再編担当主査

1 説明内容

- (1) 学校再編検討会議からの提言（案）について
- (2) 統合準備について
- (3) 心のケアについて
- (4) 通学方法について

2 質疑応答（◎地域住民、保護者の発言 ・市教委の発言）

◎保護者は、豊地小の将来はどうなるのかと心配している。義務教育学校は、いつごろを目標に協議を進めていくのか。

- ・義務教育学校は、10～20年後としているが、子どもの数の推移を十分に検討する必要がある。小中一貫教育の良さを活かせる適正規模になるのがいつかを児童・生徒数の統計データを元に判断していく。

◎高畑地区から細川公民館までは4kmを超える。自転車で公民館まで行くのは負担になる。高篠あたりにバス停を置いてはどうか。

◎高篠から路線バスに乗って定期代を補助するということも検討してもらえないか。

◎6km以上と書いてあるのに、なぜ公民館まで自転車で行くのか。小学校が高畑・桃坂間で使用しているバスを何とか活用する方法を考えるべきではないか。

◎桃坂は危ない。現在も桃坂だけは車で送迎している。自転車で公民館まで行くという案は、子どもにも保護者にも負担になる。この案については再度検討してもらいたい。

- ・ご意見としていただき、検討事項とする。

◎土日祝日の部活動はバスが出ないのか。

- ・今のところ、土日祝日は全校行事以外ではバスを出す予定はない。

◎部活動は中学校においては大きな教育活動である。土日、長期休業日でもバスを出して教育活動に取り組みさせるべきではないか。バスの調整が難しいのであれば、部活の時間をバスに合わせる等、対応できるのではないか。

- ・学校としては、細川地区の子どもが部活動に参加できる方法をもちろん考える。
そこにバスをどう活用できるかが検討課題である。

◎口吉川地区では提言案に難色を示されたということだが、口吉川地区の決定が遅れることによって、令和4年の統合予定は遅れていくのか。

- ・今後、口吉川地区の方としっかり話をし、そういうことがないようにしたい。

◎心のケアについて2年生、3年生で統合になる子どもたちの対応をしっかりとしてほしい。

- ・星陽中で子どもたちの様子をよく知っている先生を統合する中学校に配置し、子どもたちの様子をしっかりと見守る。その上でカウンセラーとも連携していく。

◎自転車通学の地区に指定されているが、公民館まで目と鼻の先なので、申請したらバスに乗れるのか。

- ・6kmを基準としている。今のところは市全体でその基準で考えている。

◎例えば令和5年まで統合を伸ばして、学年ごとに段階的な統合ができないか。

- ・段階的に統合するのは、さらに少人数になるので、教育内容を維持するのが困難であり、デメリットの方が大きいと考えている。

◎1人だけ自転車で行かないといけないことになるので、危なくて心配である。

6km未満の地区もバスでも自転車でもいいとしてもらえると保護者として安心する。スクールバスが利用できない時のために、路線バスの増便をしてほしい。義務教育なので子どもが自立して通学できるようにしてほしい。

- ・要望として持ち帰り検討する。

◎細川町ではふれあいバスが地域で走っている。子どものためにバスを走らせたという町の方もいる。教育委員会だけで考えるのではなく、地域の方も入れてみんなで考えてほしい。

- ・統合準備委員会では、地域と保護者の代表者に参加していただく予定である。

三木市の学校再編についての説明会まとめ（上吉川地区）

開催日：令和元年7月25日

会場：上吉川小学校

地域出席者 吉川町の住民、保護者等 32人

市教委出席者 教育長、教育総務部長、教育振興部長、学校教育課長、
学校再編担当副課長、学校再編担当主査

1 説明内容

- (1) 学校再編検討会議からの提言（案）について
- (2) 統合準備について
- (3) 心のケアについて
- (4) 通学方法について

2 質疑応答（◎地域住民、保護者の発言 ・市教委の発言）

◎スクールバスには運転手以外で大人は誰か乗るのか。運転手は市の職員か。

- ・運転手以外に大人が乗ることは考えていない。
- ・現在運行しているスクールバスは、市が業者に委託しており、その業者の運転手が子どもたちを送迎している。吉川の場合も同様と考えている。

◎スクールバスは、5ルート一斉に走るのか。

- ・1ルート1台のバスを運行する。下校は低学年と高学年では時間が違うので2往復走らせることになる。

◎バスを降りても長い距離を歩いて帰ることになるので、特に低学年のうちは心配だが、保護者が迎えに行けない場合はどうなるのか。

- ・人の目の垣根隊や地域の方に見守りをお手伝いいただくということも考えていないといけない。

◎統合した後、小中一貫教育を行う学校をめざしていくということだが、例えば特例校のように、他の学校にはないような特色を考えているか。

- ・小中一貫校の最大の特徴は、9年間を通した教育課程を編成すること。統合を経て、さまざまな地域から子どもたちが集まってくるので、「地域を学ぶ」ということはしっかりと行わないといけないと考えている。

◎統合まであと1年半しかない。子どもたちに理解を求められるのか。

- ・交流事業に取り組み、統合した先での不安を少なくするということはできる。保護者の意見も伺いながら進めていきたい。

- ・吉川は小小連携の素地がある地域である。5・6年生だけでなく、全ての学年で交流を進めていく。

◎来年、完全複式になると先生の数も減ってしまう。それをどう考えているのか。

- ・学校の先生の数は学級の数で決まる。来年度、完全複式になる可能性があり、学級減になると先生の数が減る。三木市教育委員会では、兵庫県教育委員会に働きかけて、加配教員を確保したい。

◎今までどおり主要教科は単学年で授業が行えるのか。

- ・そうできるように最大限努力する。

◎1学年何クラスになる見込みなのか。

- ・3校が統合した場合は1学年1クラスになる。東吉川小がいっしょに統合した場合は、学年によっては2クラスになる可能性はある。

◎1クラスを20人くらいにして、クラス替えを経験するという風にしてほしい。

- ・1学級の児童数は決められているので、それを市独自で行うというのは難しい。
- ・人間関係が固定化してしまうということについては、縦割り集団を活用しながら緩和していきたい。

◎東吉川小が後で統合するということには違和感がある。

- ・上吉川小と中吉川小はできるだけ早くという要望が強かった。

◎東吉川地区から通っているよかわ認定こども園の保護者の方のうち、9割近くの方が令和3年度に統合してほしいと思っている。東吉川小のPTAの意見は強く通るが、これから通うことになるこども園の保護者の意見が反映されないのは残念。

- ・東吉川小一校だけが遅れることによる子どもたちへの影響について考えないといけないということを、東吉川地区の説明会でお伝えする。

◎運動会のときなど、駐車場はどうするのか。

- ・全校行事等の際には、運動場の一部と学校周辺のスペースを含めて、100台程度は確保できると見込んでいる。
- ・運動会の際には、例えば、吉川総合運動公園に駐車して、そこからスクールバスで送迎することなども考えられる。

三木市の学校再編についての説明会まとめ（みなぎ台地区）

開催日：令和元年7月31日

会場：みなぎ台小学校

地域出席者 吉川町の住民、保護者等 25人

市教委出席者 教育長、教育総務部長、教育振興部長、学校教育課長、
学校再編担当副課長、学校再編担当主査

1 説明内容

- (1) 学校再編検討会議からの提言（案）について
- (2) 統合準備について
- (3) 心のケアについて
- (4) 通学方法について

2 質疑応答（◎地域住民、保護者の発言 ・市教委の発言）

◎みなぎ台小学校と中吉川小学校や上吉川小学校は、教育内容や地域の雰囲気など、細かいところが違うことがたくさんある。子どもや親が様々な悩みを抱えることもあるが、学校に言うと先生方が忙しくなるので、不安なことがあった場合の対応窓口を設置してもらえないか。

- ・現在ある教育センターの相談窓口が活用できる。その窓口では、心の専門家がまずは対応する。統合に際しては不安も大きいと思うので、個々のケースについて判断し、市のどの部署が対応したらよいか決めていきたい。併せて、学校とも連携していきたい。

◎保護者が学校に集まったときの駐車場は確保できているか。

- ・完全なマイカー規制は不可能だと考えているが、幼稚園、運動場の一部を含めて、近隣の場所で100台は確保できる見込みである。
- ・運動場を使う行事の場合、吉川の総合公園に車を止めてスクールバスで学校までピストンで運ぶということも案として考えられる。統合準備委員会で協議して決定していく。

◎みなぎ台入口の空き施設を駐車場として活用できないか。

また、北地域はイノシシが入ってくるが、北地域の上の空き地を、鉄線をはった駐車場にすると、イノシシも防ぐことができる等、案はいくつか持っている。そういうことを検討する場があればありがたい。

- ・ご意見として伺う。統合準備委員会で協議して決定していく。

◎こども園へ向かう車が、スピード規制があるのに守ってくれない。

ルートも決まっていて、朝は子どもを迎えるために立っている方がいるが、夕

- 方は立っていない。車の出し入れもしにくく、ストレスを抱えて生活している。
- ・統合準備委員会の通学・地域部会でルールづくりなどを話し合ってもらおう。近隣にご迷惑をおかけしないように、行事等の運営も工夫が必要である。
- ◎こども園の送迎の車のルートは一方通行としているが、守らない車がある。さらにスクールバスが通るとなると、子どもの安全面が心配である。バスの乗り降りの場所も安全な場所に設定してもらいたい。
- ・バスの乗り降りの場所を考えないといけない。地域の代表にも集まってもらって検討を進めていく。地域の方には、しっかりとご意見をお聴きする。
- ◎こども園の前に、子どもの安全のためにも、統合までに横断歩道を設置してほしい。また、ミラーも設置してほしい。
- ・こども園の前の横断歩道は、教育委員会からも警察へ要望している。警察は、舗装の色を変えているので今のところ必要ないという判断であった。引き続き要望していく。併せてミラーについても要望していく。
- ◎吉川の4小学校が集約して統合するというのは、新しい学校という考え方が、みなぎ台小学校に統合という考え方が。
- ・どの学校も様々な歴史、思いをもって集まってくる。ここで新たな学校がスタートするというイメージである。
- ◎統合準備委員会は各校で立ち上げるのか。集まって立ち上げるのか。いろいろな調整が必要になる。来年になってからでは無理だと思う。
- ・統合準備委員会は吉川の地区で1つ立ち上げる予定である。統合準備委員会を開くための準備は市教委で進めている。
- ◎アフタースクールは学校の中に設置すると思うが、学校の教育活動に支障が出ないようにしてほしい。
- ・アフタースクールは、学校の中にはあるが、学校から切り離されて運営されている。施設面でも今後何らかの対応を行う予定である。
- ◎付き添いが必要な特別支援学級の児童がバスに乗るとなった場合の対応はどうか。
- ・障がいの程度やニーズを十分に把握した上で、最善の方法を考える。
- ◎小中一貫校を目指しているが、どの程度のスパンで考えているのか。
- ・第一校区にできる学校については、10年を待たずに設置したい。喫緊の課題は、提言が示されればある程度落ち着くと考えている。小中一貫教育への要望もあるので、できるだけ早い時期を考えている。

三木市の学校再編についての説明会まとめ（中吉川地区）

開催日：令和元年8月2日

会場：中吉川小学校

地域出席者 吉川町の住民、保護者等 46人

市教委出席者 教育長、教育総務部長、教育振興部長、学校教育課長、
学校再編担当副課長、学校再編担当主査

1 説明内容

- (1) 学校再編検討会議からの提言（案）について
- (2) 統合準備について
- (3) 心のケアについて
- (4) 通学方法について

2 質疑応答（◎地域住民、保護者の発言 ・市教委の発言）

◎今回の提言案であれば、統合しても2クラスにはならない。単学級なら、教室数を考えなくてもよいので、中吉川小を拠点として統合することはできないか。

- ・学級を2つに分けて少人数指導を実施するためにも、ある程度教室数にゆとりをもっておかななくてはならない。また、アフタースクールに3教室使用することを予定している。
- ・子どもの安全を考えると、バス5台を学校の近くまで近づける必要があり、中吉川小に集約して統合するのは難しい。

◎跡地利活用について、使われなくなって時間が経つほど利用しづらくなるのではないか。今管理がされてきれいに使われている間に、跡地利用について考えていくべきではないか。

- ・学校再編の方針が決定するまでに、跡地利用を考えるのは困難であると考えている。
- ・跡地利用については、教育委員会だけではなく、市長部局と連携しながら考えていく必要がある。

◎バスルートについて、この案だと、数人だけが歩いて帰ることになり、大変心配である。もう一度検討してほしい。

- ・ご意見としてお聞きしておく。今後は、登下校のグループを、2つの地区又は3つの地区を1つにする等の工夫が必要である。人の目の垣根隊も今までは小学校区毎に活動していたが、新しくなる校区でどう取組を進めるか考えていく必要がある。統合準備委員会の通学・地域部会で検討していくことになる。

◎みなぎ台小学校は、福祉施設として建てられたと聞いている。教室の様子も普通の小学校ではない。子どものためというのは分かるが、準備は2年しかない。無理にしなくてもよいのではないか。

- ・福祉施設としての活用は想定していない。
- ・オープンスペースの教室では、落ち着いて学習できないのではないかという心配があると思うが、教室と廊下を仕切る壁を設置する工事をして、子どもたちが落ち着いて学習ができるように配慮する。

◎各小学校は避難場所になっているが統合したらどうなるのか。

- ・避難場所については、市では危機管理課が担当しており、すでに検討が始められている。統合までに方向性を出す。

◎信号のない横断歩道を1人で歩かせるのは心配である。住宅があるところまで行くまでは山なので、不安が大きい。希望として、信号のある横断歩道ができるまでは、4km未満でもバスの対象としてもらえないか。

- ・通学路については、地域と子どものことをよく知っている学校と協議をして決めていくことになる。信号機や横断歩道は、すぐには設置できないかもしれないが、統合準備委員会で検討する中で要望していく。
- ・信号、カーブミラー等については、警察とも協議し、検討していく。

◎1年半の間にどういう回数で統合準備委員会を進めようとしているのか。

- ・先進地域の例を参考に、統合準備委員会の全体会は、2～3か月に1回のペースで開こうと考えている。しかし、専門部会はもっと頻繁に行われることになると考える。また、担当する課題によって回数や方法は変わってくると考える。

◎1年半でそれは絶対無理だと思う。早急に始めていかないといけない。案が出された上ですぐに話し合うくらいの日程でいかないと無理だと思う。

- ・できるだけ早く立ち上げ、スムーズに進めていけるようにしていかなければならない。

◎低学年と高学年の終わる時刻を同じにしてもらえたら安心な部分がある。

- ・学校の教育内容、教育のあり方は学校が考えることになる。このような意見があることは伝えていく。

◎親が心配しているのは登下校のこと。今でも距離があるのに、みなぎ台の坂を上がるということに不安がある。徒歩対象の地区が中吉川小に集まって、バスでみなぎ台小へ行くという案も検討してほしい。

- ・ご意見としていただく。

三木市の学校再編についての説明会まとめ（東吉川地区）

開催日：令和元年8月5日

会場：東吉川小学校

地域出席者 吉川町の住民、保護者等 37人

市教委出席者 教育長、教育総務部長、教育振興部長、学校教育課長、
学校再編担当副課長、学校再編担当主査

1 説明内容

- (1) 学校再編検討会議からの提言（案）について
- (2) 統合準備について
- (3) 心のケアについて
- (4) 通学方法について

2 質疑応答（◎地域住民、保護者の発言 ・市教委の発言）

◎東吉川小を残してほしいという意見は、東吉川小に通っている人の意見が多いのか。地域の人が多いのか。

・東吉川小に通っているPTAの方の意見が多い。まちづくり協議会のアンケートでも、他の地域に比べると、小学校を残してほしいという意見が多かった。

◎現在就学前なので、入学してからの統合になるが、東吉川小だけ統合が後になるのであれば、小学校に入学する際に学校を選ぶことはできるのか。

・学校は校区制なので、基本的には学校を選ぶことはできない

◎統合した際には、みなぎ台小としてスタートするのか。

・それぞれの文化や歴史を持った小学校が複数集まるので、新しい学校がこれから始まるという考えでスタートする。校名等は統合準備委員会の中で考えることが適切だと考えている。

◎令和4年度以降に統合ということだが、具体的に何年ぐらいに統合するのか。何年というのが無ければ、どういう条件で統合になるのか。

・ある程度は地域や保護者で協議をして方向性を出していけばいいと思うが、複式学級になるというのは、一つのタイミングではないかと思う。ただし、なんとか複式学級にならずに済んでいるという状態ではいけない。教育委員会としては、現在の吉川の4小学校が適正な規模だとは考えていない。学校再編は、子どもたちにたくさんの意見や考えに触れてほしいというのが出発点である。地域や保護者の意見がある程度まとまっていく段階を経て、統合の時期が早く決まっていくことが大事だと考えている。

◎みなぎ台小と統合するということが、みなぎ台地区の住民に説明はしているのか。

- ・住民に対しての説明会は行っていないが、これまでの説明会の中で地域の状況は理解している。統合準備委員会の中で地域住民を交えて話し合っていく。
- ◎行事等で車がいっぱいになったときに、学校周辺の方たちがどう思われるのかを心配している。
 - ・全校行事等の際には、運動場の一部と学校周辺のスペースを含めて、100台程度は確保できると見込んでいる。
- ◎習い事で車が列になり、住民から苦情が来ることを心配している。
 - ・地域住民には、今後、様々なお願いをすることがある。保護者にもご理解を得た上でルールを作り、地域住民には説明をしていく。ただし、習い事は義務教育とは切り離して考えないといけない。
- ◎東吉川小だけが他校とは別に統合するので、できてしまったグループに入りにくいと思うが、そういうケアも考えてくれているのか。
 - ・東吉川小の子どもたちをよく知っている先生を、統合先の学校に配置するなどして、子どもたちの心のケアに努めていく。
- ◎東吉川小は、地域の方との関わりが強いが、統合することによって地域の方とのふれあいが薄れていくのではないかと心配している。
 - ・みなぎ台小に東吉川の地域の方に来てもらう等、新たな仕組みを考えていく必要がある。また、人の目の垣根隊やバス停での見守り等も、新たに形を変えていくことが必要になると思う。
- ◎1年半の準備期間の中で統合ができるのかと心配している。統合準備委員会で扱う分量が大きすぎる。準備の内容を第1回の統合準備委員会で示してほしい。
 - ・十分な時間があるとは思っていない。第1回目にはサンプルをお渡しするよう準備を整えておく。
- ◎準備期間がもう少し延びるということはないのか。
 - ・子どもたちの学びを中心に考えると、実施期間を延ばすということは難しい。タイトなスケジュールであるので、やるべきことを整理して取り組まなければならない。
- ◎東吉川地区から通うよかわ認定こども園の保護者のアンケートでは、東吉川小が令和4年度以降に統合するという案に賛成の方が12%で、令和3年度に他の小学校といっしょに統合してほしいという方が88%であった。
- ◎もつとこども園の方にも説明があってもよいのではないかと心配している。
 - ・これまでもホームページや地域への回覧で情報をできる限り提供している。今後も就学前児の保護者の意見をしっかりと聞きながら進めていかなければならない。

学校再編の実施方針に係る提言（案）

1 喫緊の課題とする学校の統合について

児童・生徒数の減少が著しく、喫緊の課題とする学校の統合については、これまでの保護者や地域の方との意見交換会、学校再編検討会議での意見聴取などの内容を踏まえ、次のとおりとする。

(1) 志染中学校の統合

ア 統合校

志染中学校は、緑が丘中学校と統合する。

- 統合校として緑が丘中学校と自由が丘中学校のいずれにするか、保護者や地域の方の意見は統一されていないが、緑が丘中学校は、地理的に東西に長い志染地区のほぼ中間点に位置することから、統合校は緑が丘中学校とする。
- 志染地区の方の生活圏は、自由が丘よりも緑が丘、青山との意見があった。

イ 統合時期

志染中学校と緑が丘中学校との統合は、令和3年度に行う。

- 一定の準備期間は必要であるが、生徒数減少が顕著であり、早急な対応を要する。

(2) 星陽中学校の統合

ア 統合校

星陽中学校は、「細川地区は三木中学校」、「口吉川地区は吉川中学校」とそれぞれ統合する。

- 細川地区は、保護者、地域ともに、三木中学校との統合を望んでいる。
- 口吉川地区は、統合校として三木中学校と吉川中学校のいずれにするか、保護者や地域の方の意見は統一されていないが、地域が隣接し、地域性が似通っているため、統合校は吉川中学校とする。

イ 統合時期

星陽中学校と三木中学校（細川地区）及び吉川中学校（口吉川地区）との統合は、令和4年度に行う。

- 三木中学校及び吉川中学校との統合準備を進めるため、一定の準備期間を要する。

(3) 吉川4小学校の統合

ア 統合校

吉川の4小学校は、みなぎ台小学校に集約し、統合する。

児童数、教室数、建築年度等を勘案し、みなぎ台小学校に他の3小学校を集約する。

イ 統合時期

- 中吉川小学校：令和3年度
一定の準備期間は必要であるが、早急な対応を要する。
- 上吉川小学校：令和3年度
複式学級化が進んでおり、早急な統合を実施する必要がある。
- 東吉川小学校：保護者や地域の方のご意見をお聞きしながら、令和4年度以降に統合する。

2 喫緊の課題とする学校の統合予定一覧

年度 学校名	令和元年				令和2年				令和3年				令和4年				令和5年				
	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	
志染中					統合準備				統合												
星陽中					統合準備				統合												
中吉川小					統合準備				集約・統合												
上吉川小					統合準備																
みなぎ台小					統合準備																
東吉川小																					

保護者や地域の方のご意見をお聴きしながら、令和4年度以降に行う。

3 三木市立学校の将来像（全体案）について

【小中一貫教育】

社会が急速に変化し、予測が困難な時代にあっても、生き抜く力を育む教育を更に推進するため、異学年の児童生徒の関わりや9年間の継続した教育を行う小中一貫教育（小中一貫校や義務教育学校への再編）をめざすこと。

今後、先進的な取組を参考にしながら、研究を進め、小中一貫教育の方向性や指導体制を確立すること。

【教育内容】

学力の向上や人権教育を柱とした豊かな心の育成、少人数の良さを活かした教育の実践をはじめ、三木市の学校教育がこれまで培ってきたことを継承しつつ、小中一貫教育の良さを最大限に活かした教育が推進できるよう研究を進めること。

複数の地域からなる新たな校区が生まれるため、地域社会との関わり方などについて研究を進めること。

【学校の設置】

児童・生徒数の変動について定期的に推計を行い、10年から20年後の姿として先に示した「三木市の学校再編のイメージ」を元に小中一貫教育を行う学校の設置時期や設置位置などを検討していくこと。

【保護者、地域への説明】

再編の過程において、小中一貫教育に係る研究の成果や学校再編の進捗状況について、保護者や地域の方などに丁寧に説明を行うこと。